

はかまだより

「困った子」は、「困っている」子！？

「宿題をやらない」「ゲームを止めない」「忘れ物が多い」「気に入らないことがあるとかんしゃくを起こす」。子どもたちの姿を見て「どうしてこうなんだろう…」と頭を抱えてしまうことはありませんか？私たちは、子どもたちの言動をつい「困った子」というレッテルを貼ってしまいがちです。しかし、もしその「困った行動」が、子どもにとって「困っている」ことからくる**SOSのサイン**だとしたら、どうでしょうか。子どもの行動の裏に「不安」「混乱」などが隠れているのかもしれません。

困った行動には意味がある

子どもは、自分の気持ちを言葉にするのが難しい為、困り感を行動で表現しようとしています。

宿題をやらない」のは…**問題がわからない、間違えるのが不安**で取りかかるのに人一倍勇気がいるのかもしれません。「忘れ物が多い」のは…一度にたくさんの**指示を覚えるのが苦手**で、何からやっていいのかわからないのかもしれません。「ゲームを止めない」のは…**切り替えが苦手**だったり、途中で抜けると友だちに**嫌われるのではないかと不安**なのかもしれません。

行動の4つの機能

1. 物や活動の要求

例：かんしゃく → ゲームができる

2. 注目要求

例；いたずら → 親の関心が向く

3. 逃避・回避

例：母から離れない → 不安の軽減

4. 感覚刺激

例：椅子をガタガタ → 目が覚める

まずはできることから

まずは共感がおすすめです。「やりたくないよね」「イライラしたんだね」と行動の裏にある気持ちを言葉にしてみましょう。その上で、**「どうしたの？」「何か手伝えることある？」**と一言声をかけてあげてください。大人が手伝う時は、**全部やっしまわず**、子どもが自分でできることを何か一つ残しておきましょう。（ちょっとしたことでもOKです）

編集後記

困った行動に意味があるのはわかって「じゃあ、どうすれば？」って疑問を持つのも自然な気持ちだと思います。そこで、今回は具体的な対応策についてお話したいと思います。

[制作・編集担当 袴田亮]